

ハナニラ (*Allium tuberosum*) の養分吸収特性

十川由起 岡林美恵*

Nutrient uptake characteristics of Hana-nira, a variety of *Allium tuberosum*

Yuki SOGAWA and Mie OKABAYASHI

要 約

3月定植, 翌年6月末栽培終了, 栽培期間約15ヶ月の作型でかん水同時施肥法を用いて, ハナニラの養分吸収特性を調査し次の結果を得た.

1. 10aあたりのN, P_2O_5 および K_2O の総吸収量はそれぞれ55kg, 17kgおよび54kgであり, 地上部の5要素吸収量は K_2O , N, CaO, P_2O_5 , MgOの順で多かった.
2. 地上部の乾物生産量およびN, P_2O_5 の吸収量は, 11,12月から翌年1,2月の期間は増加が緩慢となった. また, K_2O は11,12月に最も吸収量が少なかった.
3. 花茎および茎葉汁液の硝酸イオン濃度は, 茎葉のN含有率と高い相関が認められた.
4. 茎葉汁液の硝酸イオン濃度は, 栽培期間中400~4600ppmと変動幅が大きく, ハナニラの養分状態をリアルタイムに診断できる可能性を示した.

キーワード: ハナニラ, *Allium tuberosum*, 養分吸収, かん水同時施肥法, 硝酸イオン濃度